

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 14 日現在

機関番号：13501
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21730688
 研究課題名（和文） 生徒の主体的な英文読解を促す教師発問ストラテジーの開発
 研究課題名（英文） Designing Teacher Questions to Promote Students' Active Reading Comprehension in English
 研究代表者
 田中 武夫（TANAKA TAKEO）
 山梨大学・教育人間科学部・准教授
 研究者番号：50324174

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、生徒の主体的な英文読解を促す教師発問をどのように考案すればよいか、その指導方略を具体的に提案することにある。まず、読解指導における発問に関する先行研究を整理し、発問の作成ポイントを提示した。また、実際の英文テキストを用いた発問の活用について具体的な方略を提案した。そして、発問の中でもとくに推論発問に焦点を絞り、読解における深い理解を促す発問の特徴とその活用方法を提案した。

研究成果の概要（英文）：This study considered the use of teacher questions to promote students' active reading comprehension in reading instruction and presented teaching strategies using teacher questions, especially how teacher questions should be designed and implemented in reading instruction in junior high school and high school. In addition, this study focused on the roles of inferential questions and presented teaching strategies using inferential questions to promote students' deep understanding of texts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：英語

1. 研究開始当初の背景

英語科における教科書には、幅広いテーマを扱ったテキストが使用され、その内容も豊かなものが多い。しかし、教科書の本文をどのように扱うかは多くの部分が教師に任せ

られており、指導のあり方に確信を持たずにリーディング指導が行われてきているのが現状である。また、表面的な理解で終わらせずに、いかに生徒の深い理解を導き出せばよいかという課題は、中学校および高等学校にお

ける英語教師にとって共通したリーディング指導の課題の一つであると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、生徒の主体的な英文読解を促す教師発問をどのように考案すればよいかその指導方略を具体的に提案することにある。本研究における発問とは、生徒に対して教師が意図的に投げかける問いのことであり、授業目標の達成に向け、生徒が主体的にリーディング教材やリーディング活動に向き合えるよう計画した教師の働きかけを指す。

3. 研究の方法

これまでの教師発問に関する先行研究を収集し、リーディング指導においてどのような発問タイプがこれまでに提案され、それぞれの発問タイプがどのような特徴を持ち、そして、どのようにそれらの発問を作成し、授業で活用していけばよいかなど、リーディング指導における発問のあり方について考察した。そして、実際の中学校や高等学校リーディング教材を用いて、様々な英文テキストに応用できるような、主体的な英文読解を促すための読解発問づくりの方略を提案することにした。

4. 研究成果

(1) 読解指導における発問作りについて

読解指導における発問に関するこれまでの先行研究を踏まえ、読解発問の作成にあたる教師の作業として、次の4点が重要であることを指摘した。

- ① 授業における発問の役割を理解する
- ② 教材である英文テキストの特徴を捉える
- ③ 生徒の実態を把握する
- ④ 指導目標を設定する

まず、発問には様々な役割があると考えられる。発問を考案するために、多様な切り口からの授業づくりが求められ、教師は教材を深く豊かに捉えることになる。発問を授業展開の誘導灯として活用することで、スムーズかつ臨機応変に授業を進めることができる。そして発問により教師と生徒とのやりとりを豊かにし、授業に集中を作り出すことができる、などの役割が発問にあることをまとめた。

次に、教材の特徴をつかむことの重要性を指摘できる。例えば、テキストに一貫して流れる主題を読み取ること、説明文や物語文といったテキストタイプを把握し特徴をつかむこと、挿絵や写真といったテキスト外の情

報も、テキストの主題を深く理解する手段として捉えること、など教師が教材の特徴をつかむことができれば、発問づくりの大きなヒントになることを指摘した。

準備作業における生徒の実態把握や指導目標の設定についても発問作成において重要なポイントである。例えば、生徒に何を学ばせたいのか指導目標を明確にする、生徒の意欲やスキルなど現在の生徒の実態を正確に把握する、授業展開に沿って、いつどのように何を問うかを考える、といった準備過程の中で、教師が生徒に教えたことを生徒が学びたいことへと変える仕掛けを具体的な発問として考えることが重要であることを指摘した。

次にリーディング指導の中で発問を行うためのステップとして、リーディング指導を次の4つの区分が有効であることを提案した。

- ① 導入の段階
- ② 理解の段階
- ③ 思考の段階
- ④ 表現の段階

発問は、授業での生徒の主体的な思考活動を促す起点を作り出すものであり、これらの授業展開に応じて様々な役割をもつ。例えば、導入の段階では、教材に対する生徒の興味関心を高め、教材への取り組みを動機づける。理解の段階では、教材の正しい理解を効率よく導き他の生徒と異なる解釈を共有させながら、教材の理解を深める。思考の段階では、教材のメッセージを深く理解させたり、その理解をもとに生徒が自分の考えを深めたりする。表現の段階においては、自分の考えを表現する必然性を作り出すために発問が有効となる。このように4つの段階に授業展開を分けることで、それぞれの段階ごとの発問の特徴を押さえた上で、発問の活用方法を考えることが重要であることを指摘した。

また、これまでの発問に関する先行研究をもとに、リーディング指導における生徒の主体的な思考を上手く引き出す発問の特徴には、以下のいずれかの特徴があることを整理した。

- ① 本質性:
教材の主題を尋ねる発問を行い、生徒に教材の価値を感じさせたり、生徒自身との関連をもたせたりする
- ② 間接性:
教師が先回りして生徒に教えてしまわず、ヒントになる情報を効果的に提示し生徒自身で答えに気づかせる
- ③ 意外性:
生徒にとって意外なことや意見が対立

する部分を尋ね、知的好奇心を高める意図的な仕掛けがある

- ④ 偶然性:
生徒から出てくる突発的な考えや意見を許容する部分がある
- ⑤ 多様性:
異なる考え方や解釈を生徒から引き出し、意見や解釈の相違をクラスで共有できる要素がある

(2) 発問のリーディング教材への応用

英語の読解指導における教師発問の具体化を中心に、英文テキストを用いた実際の授業の中で、教師はどのように発問を提示すれば生徒の主体的な読解を促すことができるのか、具体的な発問例を提示するとともに、その活用方法のポイントについて検討した。そこで、中学校、および、高等学校の英語の検定教科書で使用されている実際の英文テキストを対象にして、とくに、典型的なテキストタイプである会話文、物語文、説明文の3つのタイプを取り上げながら、具体的な読解発問の提示方法を考案した。この考察を通して明らかになった、読解指導における発問づくりの具体化における留意点は以下の通りである。

- ① テキストのメッセージを読み解く楽しさを生徒に感じさせるために、発問タイプや発問の提示順を工夫する（例えば、事実発問、推論発問、評価発問のバランスや組み合わせを考える）
- ② テキスト理解にクラスの生徒全員を参加させる手立てを発問提示の中で考える（教師の応答の方法やヒント情報の提示の仕方について事前に計画する）
- ③ 今後の読みにつながる読解ストラテジーをクラスで共有する（読解力育成のための指導目標を明確にしておく）
- ④ 生徒の読みをさらに深めるために推論発問のような発展的な発問を活用する（推論発問に答えさせるだけでなく、答えの根拠について他の生徒との解釈の違いを比較検討させる）

などである。これらのポイントをもとに、英文読解に対する生徒の主体的な読解を促しながら、生徒の読解力を効果的に育成する指導方策を具体的に提案した。

(3) 推論発問の可能性と活用ポイント

リーディング指導における発問の中でも、とくに推論発問の読解指導における活用方法に焦点を絞り、リーディング指導における推論発問づくりの具体化の検討を行った。

推論発問 (inferential questions) とは、テキストの情報をもとに、テキスト上には直

接示されていない内容を推測させる問いを指す。テキスト上に直接示された内容を読み取らせる事実発問 (fact-finding questions) とは異なり、推論発問には次のような利点があることを指摘した。

- ① テキストの細部と全体を必然的に読み取らせる
- ② 同じテキストを何度も繰り返し読ませる
- ③ 生徒の背景知識を活性化し具体的な理解を促す
- ④ 他の生徒と異なる解釈や考えを共有することで別の角度からのテキスト解釈を促す
- ⑤ テキストの主題を生徒自身の力で気づかせる

英文テキストには必ず主題があるが、主題はテキスト上に直接述べられていないことが多く、テキストに書かれている情報をもとに、テキストに込められた主題を読み取らせる工夫が必要となる。そこで役立つのが推論発問であり、次のような点で生徒にテキストの主題を捉えさせる推論発問ができることを提案した。

- ① テキストには書かれていない場面や状況
- ② 登場人物の行動や意図
- ③ 人物の性格や心情・関係
- ④ 行動や出来事の結果
- ⑤ テキストにはない動作やセリフ、など

これらのポイントで推測させることで、具体的に、かつ深くテキストの主題を理解させるきっかけになることを提案した。

また、この推論発問は、会話文、物語文、および、説明文など多様なジャンルに応用できる。推論発問づくりの際にとくに工夫すべき点は、以下の点であることを指摘した。

- ① 問いの対象を明確にする
- ② テキスト内に証拠がある問いをつくる
- ③ 異なる意見を引き出す問いをつくる
- ④ 挑戦的な問いをつくる

推論発問を活用する際に、留意すべきポイントは、まず、発問の意図が明確であるかどうかである。そして、教材に対する生徒の解釈や考えが違う場合、その意見の対立を活用したり、その解釈や考えが英文のどの部分から判断したものかをクラスで確認したりする作業を通して、テキスト理解を深めることができる。また、既に理解したと生徒が思っている生徒の浅い理解を否定してみせることで、より深い真意を読み取る必要性に気づ

かせることができるものと考えられる。これらのポイントを踏まえることで、生徒のテキスト理解を深めるだけでなく、教師と生徒との英語でのやりとりを活性化できる可能性があることを提示した。

今後の研究課題としては、以下の通りである。異なるタイプの発問の中でも、推論発問が深い読みの鍵になることが明らかとなってきたが、読解指導において、推論発問以外の事実発問および評価発問の役割も欠かせないことは言うまでもない。そこで、これらの異なるタイプの発問を指導の中でどのように連携させれば、生徒の表面的な読みから深い読み取りへと導くことができるのかを明らかにすることが今後の研究課題として考えられる。次の3つが具体的に追及していきたい課題である。

- ① 事実発問と推論発問をどのように連携させれば、正確で深いテキスト理解を促すことができるのか
- ② 推論発問と評価発問をどのように連携させれば、テキスト理解をもとにした豊かな表現を促すことができるのか
- ③ 事実発問・推論発問・評価発問を駆使し英語で行う英語リーディング指導は可能かどうか

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 田中武夫, 「推論発問でメッセージを読み取らせる」『Teaching English Now』, 22号, 査読なし, 2011, 6-7
- ② 田中武夫, 「英語教育キーワード 2010 年度版『発問』」『英語教育増刊号』10月増刊号, 査読なし, 2010, 38-39
- ③ 田中武夫, 「読解指導にパズルを解く楽しさを」『Teaching English Now』18号, 査読なし, 2010, 6-7
- ④ 田中武夫, 「よい『発問』・わるい『発問』: 授業を変える発問とは」『英語教育』4月号, 査読なし, 2010, 10-13
- ⑤ 田中武夫, 「英文読解における推論発問をもとにした協同学習について」『山梨大学教育人間科学部紀要』第11巻, 査読なし, 2010, 182-192

[学会発表] (計1件)

- ① 田中武夫, 「英文読解における推論発問を起点とした協同学習のプロセス」中部地区英語教育学会, 2009年6月28日, 常葉学園大学(静岡)

[図書] (計3件)

- ① 田中武夫, 島田勝正, 紺渡弘幸 (編著). 『推論発問を取り入れた英語リーディング指導: 深い読みを促す英語授業』2011, 1-197
- ② 門田修平, 田中武夫ほか (共著), 大修館書店, 『英語リーディング指導ハンドブック』2010, 32-41, 384-393
- ③ 田中武夫, 田中知聡, 大修館書店, 『英語教師のための発問テクニック: 英語授業を活性化するリーディング指導』2009, 1-261

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中武夫 (TANAKA TAKEO)
山梨大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号: 50324174

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし